

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教 育 学 ）	氏名	当 銘 盛 之
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>中国語を母語とする日本語学習者における中日同形異義語の処理過程 —中日 2 言語間の音韻類似性と意味関連性を操作した実験的検討—</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教 授 松 見 法 男</p> <p>審査委員 教 授 中 條 和 光</p> <p>審査委員 教 授 畑 佐 由 紀 子</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、中国語を母語とする日本語学習者（以下、中国人学習者）を対象とし、認知心理学の観点から、中国語と日本語（以下、中日）の同形異義語の処理過程を実験的に検討したものである。具体的には、中日 2 言語間の音韻類似性と意味関連性を操作し、語彙判断課題における反応時間を測度として、中日同形異義語の視覚的・聴覚的処理過程を調べることを目的とした。</p> <p>論文の構成は、以下のとおりである。</p> <p>第 1 章では、心内辞書モデルに関する先行研究と中日同形異義語の処理過程に影響を及ぼす要因に関する先行研究を概観し、本研究の問題と目的を述べた。印欧語族の言語の語認知研究で得られた知見に基づき、近年、中国人学習者における漢字の処理過程を明らかにする研究が盛んに行われている。しかし、多くの研究が中日の同形同義語と非同形語を扱っており、同形異義語の処理過程については未だ十分な検討がなされていない。本研究では、中日 2 言語間の音韻類似性と意味関連性に着目した実験を行い、中日同形異義語の処理過程を明らかにする。先行研究で提唱された中国人学習者の心内辞書モデルを基本的枠組みとし、同形異義語に関する仮説モデルを構成した上で、中日 2 言語の形態・音韻・意味表象の活性化および各表象間の連結強度・方向性に基づいた説明論理に沿って、実験結果の考察を行う。</p> <p>第 2 章では、4 つの実験を行い、中国人学習者における中日同形異義語の処理過程を検討した。実験 1 と実験 2 では、同形同義語および非同形語との比較を通して、中日同形異義語の視覚的・聴覚的処理過程に及ぼす音韻類似性の影響を調べた。中日同形異義語は、すべて意味関連性が低いものを材料として用いた。実験の結果、視覚呈示事態（実験 1）では、中日の同形異義語と同形同義語で音韻類似性の促進効果または抑制効果はみられず、非同形語で音韻類似性の抑制効果がみられた。音韻類似性が高い中日同形異義語では、非同形語と同様に中国語の音韻表象が活性化し、さらに中国語の意味表象も活性化するが、その度合いが小さいため、音韻類似性の低い中日同形異義語との間で反応時間の差が生じないと解釈できる。聴覚呈示事態（実験 2）では、中日の同形異義語、同形同義語、非同形語のすべてにおいて、音韻類似性の促進効果または抑制効果はみられなかった。音韻類</p>			

似性の高い中日同形異義語では、日本語の音韻表象と中国語の音韻表象の連結を通して中国語の意味表象が活性化されるが、その度合いが小さいため、音韻類似性の低い同形異義語との間で反応時間の差が生じなかったと推察される。実験 3 と実験 4 では、中日同形異義語だけを取り上げ、その処理過程に及ぼす音韻類似性と意味関連性の影響を調べた。実験の結果、視覚呈示事態（実験 3）では、意味関連性の低い単語で音韻類似性の促進効果がみられた。意味関連性が低い場合に、日本語の形態表象から音韻表象を経由して日本語の意味表象が活性化する処理経路は、音韻類似性が高い単語と低い単語で共通する。しかし、音韻類似性が高い単語では、この処理経路に加え、中国語の音韻表象から日本語の音韻表象を経由することにより、日本語の意味表象が活性化する。音韻類似性の高い単語では、日本語の音韻表象が、形態表象との連結および中国語の音韻表象との連結によって二重に活性化するため、日本語の意味表象の活性化の度合いが大きくなり、音韻類似性の低い単語よりも反応時間が短くなったと考えられる。聴覚呈示事態（実験 4）では、音韻類似性の促進効果または抑制効果はみられず、意味関連性の抑制効果だけがみられた。これは、中国語の意味表象の活性化を示唆する。日本語の音韻表象からの連結を通して日本語の意味表象が活性化する処理経路は、意味関連性の高い単語と低い単語で共通する。しかし、意味関連性の高い単語では、日本語の意味表象が活性化した直後に中国語の意味表象も活性化し、意味表象内で干渉が生じたため、反応時間に遅延が生じたと考えられる。

第 3 章では、4 つの実験について総合考察を行った。中日同形異義語の視覚的・聴覚的処理過程モデルを提案し、本研究で設定した研究課題への回答を述べた。そして、本研究の意義と日本語教育への示唆および今後の課題を述べた。

本論文は、次の 3 点で高く評価できる。

1. 従来、中国人学習者における日本語漢字単語の処理研究は、中日の同形同義語と非同形語を扱うものが多かった。本研究では、先行研究の知見に基づき、新たに中日同形異義語の処理過程を体系的に検討した。
2. 中日同形異義語の処理過程を検討するにあたり、単語属性の要因として、音韻類似性だけでなく意味関連性をも操作する実験を行った。2 言語間の同形異義語を扱う単語処理研究において、意味関連性を取り上げることの重要性を示した。
3. 漢字単語の視覚呈示事態と聴覚呈示事態を採用した実験を行い、両事態で中日同形異義語の処理過程に違いが生じる原因について、心内辞書モデルを提案し、統一的な説明を行った。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 28 年 5 月 9 日